

～ほっかいどうの防災教育の集い 第19号(令和7年11月25日発行)～

■ 「Do はぐ」を活用しよう／北海道

■ 被災後の生活再建を助けるために。もしものときの備え「地震保険」を／財務省

* . * . ° ♦ . * . * * . . * . ° ♦ . * . * * . * . * . ° ♦ . * . * * . * . * . ° ♦ . * . * * . * . * . ° ♦ . * . * * . * . * . ° ♦ . * . * * . *

貸出は無料となっていますので、お近くの振興局危機対策室または危機対策課までお問い合わせください。



■ 留萌市で「防災・減災シンポジウム」開催（12月12日（金））

北海道開発局では、自助・共助・公助の調和が取れた「災害に強くしなやかな社会づくり」をテーマに、留萌市で「防災・減災シンポジウム」を開催します。

本シンポジウムでは、留萌地域の地域特性や過去の災害などから、いつどこで起きるか分からない災害とどのように向き合っていくか地域の方々と一緒に考えます。

是非、ご参加ください。（参加無料）

《開催概要》

1. 日 時 令和7年12月12日（金）13:30～16:00

2. 開催方法 会場及びWEBによるライブ配信

【会 場】留萌市文化センター大ホール

【WEB】Zoomウェビナー

3. 内 容 ●情報提供 「留萌地方の地域特性(気象特性と地震・津波特性)」

旭川地方気象台 次長 田野平 聡氏

●事例紹介 「留萌地域の防災の取組」

留萌市総務部総務課 主幹(防災担当) 吉田 泰規氏

留萌開発建設部 治水課長 旭 峰雄氏、道路防災推進官 大井 保氏

●講 演 「地域で守るいのち～災害と向き合う力」

東京大学大学院情報学環 特任教授 片田敏孝氏

4. 参加申込 以下の URL からお申し込みください。【申込〆切：11月28日（金）17時】

<https://sites.google.com/view/20251212-hkd-symposium>

防災・減災シンポジウムin留萌

災害に強くしなやかな社会づくり



暴風雪による道路の視程障害(国道40号)
平成24年4月の地すべり(国道239号)

昭和63年8月の水害(留萌市)

日 時：2025年12月12日（金）
13:30～16:00（12:30開場）

会 場：留萌市文化センター 大ホール
(北海道留萌市見晴町2丁目)
●Zoomウェビナー：会場よりライブ配信

第1部 情報提供
「留萌地方の地域特性(気象特性と地震・津波特性)」
旭川地方気象台 次長 田野平 聡氏

事例紹介「留萌地域の防災の取組」
留萌市総務部総務課 主幹(防災担当) 吉田 泰規氏
留萌開発建設部 治水課長 旭 峰雄氏
道路防災推進官 大井 保氏

第2部 講演「地域で守るいのち～災害と向き合う力」
東京大学大学院情報学環 特任教授 **片田敏孝氏**

災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導等のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開され、特に防災教育については、地域防災と連携した育みの環境とらえた活動を展開しています。また、地域防災については、地域の災害文化として、災いをやり過ごす知恵や災害に立ち向かう主体的姿勢の地域での定着を図り、これら一連の活動が認められて、平成24年に防災の功労者として2つの内閣総理大臣表彰を受賞されています。

質疑応答 ●会場及び、ライブ配信の「Zoomのチャット機能」より、質問をお受けいたします。進行時間の関係により、全てのご質問にお答え出来ない場合がございますので予めご了承ください。

本シンポジウムは、公益法人土木学会継続教育(CPD)の認定プログラムです。【JSCE25-1403/2.5単位】土木学会以外の団体に提出する場合の方法等は提出先団体に事前にご確認ください。

主催：国土交通省北海道開発局 共催：留萌市
後援：札幌管区気象台、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム

防災・減災シンポジウム

災害に強くしなやかな社会づくり

北海道の暮らしは、美しく豊かな自然に恵まれる一方、自然災害とも隣合わせにあります。本シンポジウムでは、災害に強い社会の構築に向け、留萌地域の災害への備えについて、どの様に向き合っていくか、留萌地域の住民・企業・行政のみならず一緒に考えていきたいと思っています。

プログラム

13:30～開 会
主催者挨拶 北海道開発局 事業振興部 調整官 貴家尚哉

13:35～第1部 情報提供・事例紹介
●情報提供
「留萌地方の地域特性(気象特性と地震・津波特性)」
旭川地方気象台 次長 田野平 聡氏

●事例紹介
「留萌地域の防災の取組」
留萌市総務部総務課 主幹(防災担当) 吉田 泰規氏
留萌開発建設部 治水課長 旭 峰雄氏
道路防災推進官 大井 保氏

14:20～第2部 講 演
「地域で守るいのち～災害と向き合う力」
東京大学大学院情報学環 特任教授 片田敏孝氏

15:50～質疑応答

16:00 閉 会
主催者挨拶 留萌開発建設部 部長 林沼孝治

会場

●シンポジウム開催
留萌市文化センター 大ホール (定員400名)
北海道留萌市見晴町2丁目
※駐車スペースが限られています。
公共交通での来場にご協力ください。

●Zoomウェビナー
お申し込みいただいた方へ、視聴用のアドレスをお送りします。
当日は、申込時の氏名・メールアドレスでご参加下さい。
【注意】申込と異なる場合、CPD認定ができません。
※オンライン参加でのCPD登録は、受講して得られた所見(学びや気づき)を100文字以上提出いただきます。

★質疑応答
ライブ配信で「Zoomウェビナー」のチャット機能よりお受けいたします。
※進行時間の関係により、全てのご質問にお答え出来ない場合がございますので予めご了承願います。

大切な人へ シンポジウムをもう一度

1 ウェビナー再配信
(1月31日18:00より配信※要申込)
12月12日に録画したシンポジウムを再配信します。視聴をご希望の方は、事前申込をお願いします。1月30日迄に視聴用のアドレスをお送りします。
※CPD登録をご希望の方は申込時にお知らせください。

2 コミュニティFM (1月4日) 日曜日 10:30～13:00
シンポジウムの様子を「エフエムもえる」で放送します。是非、お聴きください！
★ラジオ放送は FM周波数76.9MHz FM 76.9 MHz
★無料のラジオアプリでスマホからもお聴きいただけます (ダウンロード無料・要ネット)
Radimo (レディモ) 気象情報、道路交通情報、防災、災害情報もプッシュ通知!

参加方法

★QRコード及びURL <https://sites.google.com/view/20251212-hkd-symposium> から申込フォームにアクセスし、登録をお願いします。
★FAXでのお申込みをご希望の方は、以下を記載し(011-738-1889)へ送付下さい。
※CPD登録JSCE25-【2.5単位】を希望の方は、申し込み時にお知らせ下さい。

申込・お問合せ：防災・減災シンポジウム事務局 011-738-3363 平日9:00～17:00
【(一社)北海道開発技術センター 担当：藤井・向井・天見】

防災・減災シンポジウム 参加申込書 ※以下は直接入力可能です

①参加方法 (会場、Zoomウェビナー、再配信のいずれかを記載)	②氏 名	③所属(団体、会社名)	④住所	⑤電話番号 (必須)	⑥E-mail(オンライン希望の方は必須) ※可能であれば、連絡用に記入ください。	⑦CPD登録の有無

※記載された個人情報は、受付整理や当シンポジウムに関する連絡のみに利用し、それ以外の目的には使用しません。

■ 被災後の生活再建を助けるために。もしものときの備え「地震保険」を

日本では、いつでもどこで大きな地震が発生してもおかしくありません。住宅や家財が被害を受けたとき、生活を立て直すための大きな支えとなるのが「地震保険」です。

地震保険は、地震や噴火、津波による被害を補償する保険で、火災保険とセットで契約する仕組みになっています。通常の火災保険だけでは、地震が原因で起きた“火災・倒壊・流失”などの損害は補償されません。

こうした地震関連の大きな被害から暮らしを守るために、地震保険は重要な役割を果たします。

補償内容は、建物や家財の損害の程度によって、保険金が支払われる仕組みです。いざというとき慌てないためにも、契約時には保険金額や対象範囲、支払い条件などをしっかり確認しておくことが大切です。

災害直後は、住まいの確保や生活再建に大きな費用がかかります。地震保険は、その負担を少しでも軽減し、早期の生活立て直しを支援してくれる“心強い備え”。日頃の防災対策とあわせて、今一度、ご自宅の地震保険の加入状況を見直してみてもいいかもしれません。

詳細は、政府広報オンライン「<https://www.gov-online.go.jp/article/201701/entry-9333.html>」もご確認ください。

備えて安心 地震保険の話

防災グッズは避難する時の備えとしてはもう常識ですね。でも、もうひとつの備えが必要なこと、知っていますか？

それは**経済的な備え**。

その備えになるのが**地震保険**です。

被災後の当面の生活を支えてくれます。

避難時の備え。

経済的な備え。

食料

水

ラジオ

現金

貴重品

薬

など

次のページで地震保険についてお話しします。

地震保険に加入するには？

4 火災保険 + 地震保険

地震保険は、単独では加入できません。火災保険に加入してから加入する必要があります。また、火災保険の契約期間中に地震保険に加入する必要があります。

5 対象となるもの

地震保険の対象は建物と家財です。建物と家財はそれぞれ加入する必要があります。

建物：住宅、店舗、事務所、倉庫、工場、学校、病院、神社、仏閣、公共施設、商業施設、文化施設、スポーツ施設、その他

家財：家具、家電、衣類、書籍、美術品、宝石、金銭、その他

契約金額：火災保険の契約金額の30%～50%の範囲内
契約金額の上限：建物 5,000万円 家財 1,000万円

6 保険料

保険料は、お住まいの地域（都道府県）と建物の構造によって決まります。

建物構造	1階建て	2階建て
RC造（鉄筋コンクリート造）	730円	1,120円
RC造（鉄筋コンクリート造）	1,180円	1,900円
RC造（鉄筋コンクリート造）	2,330円	4,110円
RC造（鉄筋コンクリート造）	2,830円	4,110円
RC造（鉄筋コンクリート造）	2,750円	4,110円

7 割引制度

地震保険の特典として、火災保険とのセット割引があります。

- 火災保険とのセット割引：火災保険の契約金額が100万円以上の場合、地震保険の保険料が1割引きになります。
- 火災保険とのセット割引：火災保険の契約金額が100万円未満の場合、地震保険の保険料が2割引きになります。

地震保険って何？

1 地震・噴火・津波

地震保険は、地震、噴火、津波による被害を補償する保険です。火災・噴火・津波・流失に対して保険金を支払います。

お支払い例

地震により火災が発生した場合、地震により家が倒壊した場合、津波により家が流失した場合、それぞれ保険金を支払います。

2 被災後の当面の生活を支える保険

地震等による被災者の生活の安定に寄与することを目的として、被災者の生活の安定に寄与する法律が1966年に制定されました。地震保険の保険金は、被災者の生活の安定に寄与するために必要です。

3 地震保険はなぜ必要？

火災保険では、建物・家財の火災による被害を補償しています。しかし、地震による火災および倒壊などは、火災保険では補償されません。したがって、地震による被害に備えるには地震保険が必要です。

補償の対象	火災保険	地震保険
地震・噴火・津波	×	○
火災	○	×
流失	○	×

地震保険控除について

地震保険料は、所得から控除されます。その年の契約者の所得から控除されます。

所得	控除対象額
所得	地震保険料の金額（最高5,000円）
個人住民税	地震保険料の1/2（最高2,500円）

地震がおきたときには？

8 支払われる保険金

建物・家財に「全損」、「大半損」、「小半損」、「一部損」の損害が生じたときに保険金が支払われます。

被害の程度	支払われる保険金
全損	契約金額の100%（被害額が契約金額の50%以上の場合）
大半損	契約金額の60%（被害額が契約金額の40%～50%の場合）
小半損	契約金額の30%（被害額が契約金額の20%～40%の場合）
一部損	契約金額の5%（被害額が契約金額の10%～30%の場合）

※1 全損とは、建物または家財が全壊または流失した場合を指します。全損とは、建物または家財が全壊または流失した場合を指します。全損とは、建物または家財が全壊または流失した場合を指します。

※2 大半損とは、建物または家財が大半が壊れた場合を指します。大半損とは、建物または家財が大半が壊れた場合を指します。大半損とは、建物または家財が大半が壊れた場合を指します。

※3 小半損とは、建物または家財が小半が壊れた場合を指します。小半損とは、建物または家財が小半が壊れた場合を指します。小半損とは、建物または家財が小半が壊れた場合を指します。

※4 一部損とは、建物または家財が一部が壊れた場合を指します。一部損とは、建物または家財が一部が壊れた場合を指します。一部損とは、建物または家財が一部が壊れた場合を指します。

■ コミュニティ FM 三角山放送局「安全安心わが街わが家」番組出演について ＜暴風雪から身を守るために（仮）＞

札幌市西区及び周辺地域を放送エリアとする三角山放送局で放送している「安全安心わが街わが家」に道庁危機対策課職員が出演し、安全安心に繋がる情報をタイムリーに発信しています。

12月9日（火）10:45 からの回で予定しているテーマは『暴風雪から身を守るために（仮）』です。

暴風雪や大雪の際、どのような対策を行うべきかお伝えする予定です。ぜひチェックしてください。

＜聴取方法＞

- ・FM ラジオ（76.2MHz）
- ・リスラジ <https://listenradio.jp/>